

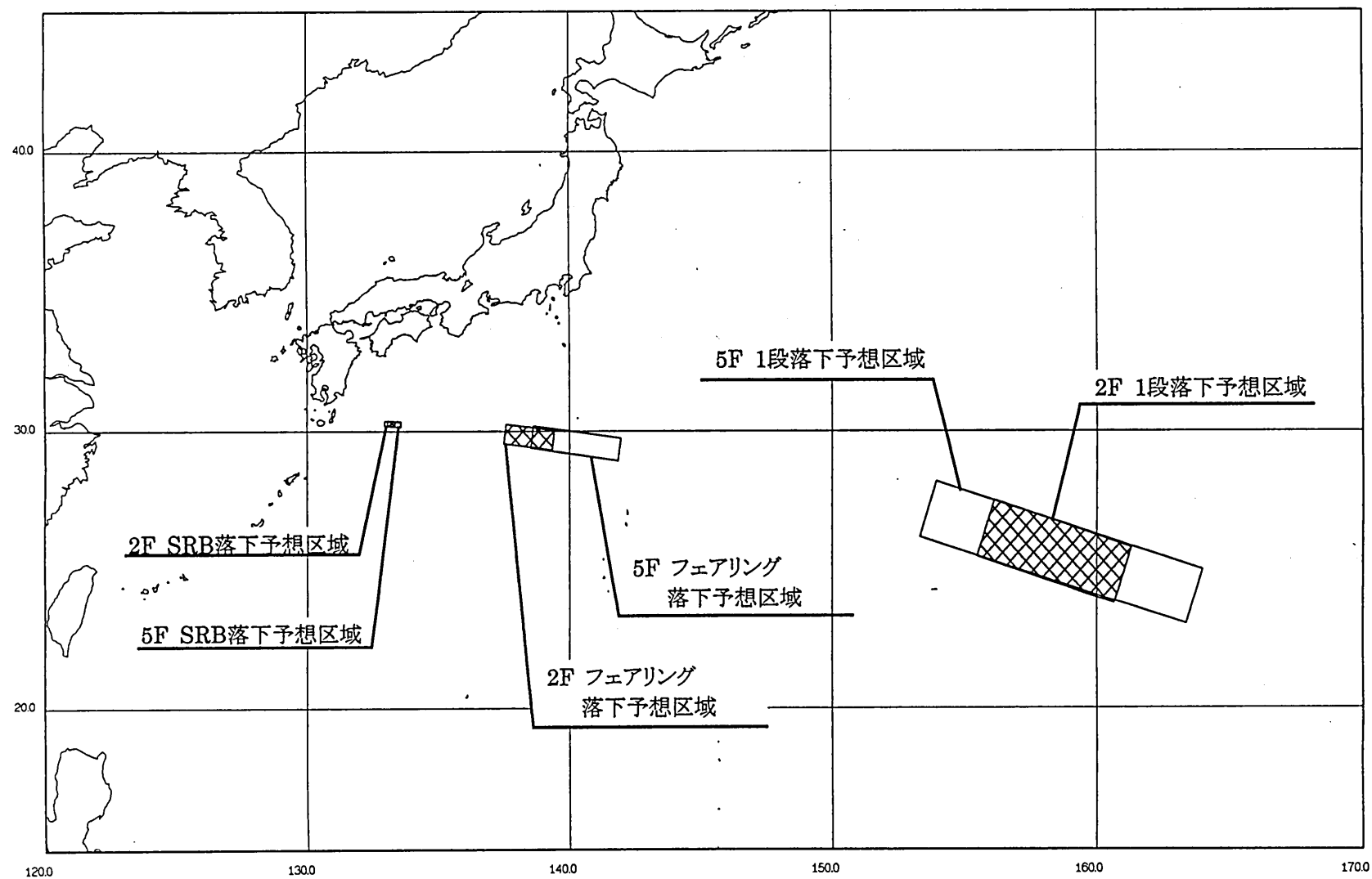
委22-3-2

H-Ⅱロケット5号機による通信放送技術衛星（COMETS）の打上げに係る安全対策について（案）

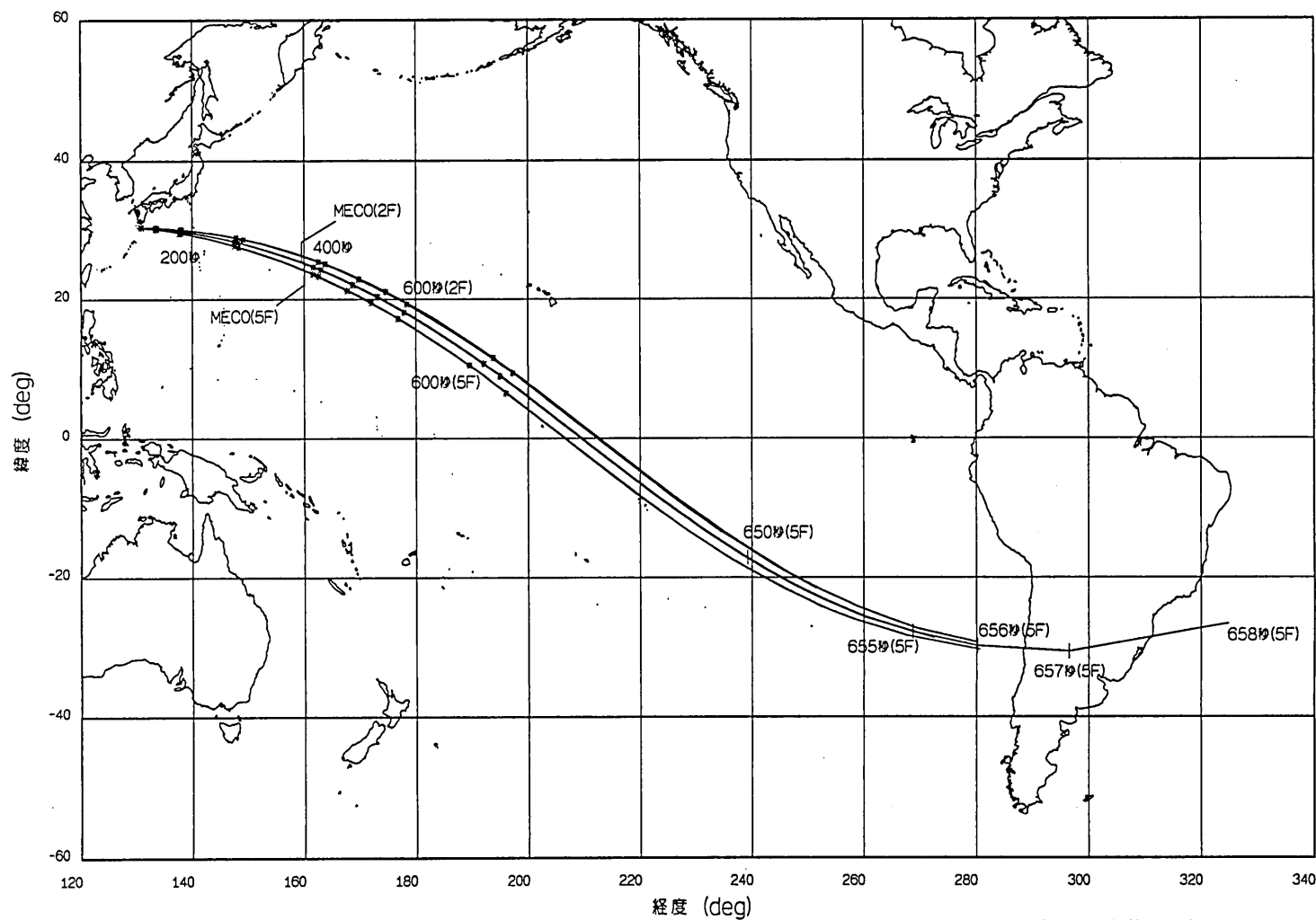
平成9年6月25日
宇宙政策課

	安全評価のための基本指針の項目	安全対策	過去のものとの比較
地上安全対策	ロケットの推進薬等の射場における取扱いに係る安全対策	搭載推進薬等 火薬類 固体推進薬 約118.2t 火工品 約 200kg 高圧ガス 液化水素 15.2t 液化酸素 86.5t ヘリウムガス 1198l キセノンガス 21.2l 危険物 ヒドラジン 1092kg 作動油 88l 危険物類似 四酸化二窒素 840kg	H-Ⅱ4号機とほぼ同じ
	静電気対策	とられている	H-Ⅱ4号機と同じ
	保護具の着用	着用が義務付けられている	H-Ⅱ4号機と同じ
	防護設備の使用等	原則として遠隔操作する	H-Ⅱ4号機と同じ
	取扱い施設の夜間巡視等	夜間等には巡回監視を行う	H-Ⅱ4号機と同じ
	発火性物品の持込み規制等	規制される	H-Ⅱ4号機と同じ
	後処置作業	打上げ整備作業時の安全対策に準じる	H-Ⅱ4号機と同じ
	警戒区域の設定		
	整備作業期間	① ヒドラジン取扱所：185m ② 衛星フェアリング組立棟：185m,230m ③ 液体酸化剤取扱所：30m ④ 吉信整備組立棟：200m ⑤ 吉信射座点検塔：200m,250m,450m	H-Ⅱ4号機とほぼ同じ
	打上げ時	吉信射点：3000m（発射約7時間30分前）	H-Ⅱ4号機と同じ
	航空機及び船舶に対する事前通報	水路通報、ノータム等により通報する	H-Ⅱ4号機と同じ
	作業の停止等	安全上の措置が講じられている	H-Ⅱ4号機と同じ
	防災対策	適切な対策がとられている	H-Ⅱ4号機と同じ
飛行安全対策	落下物等に対する安全対策		
	ロケット燃え殻等の落下予想区域	陸地及び外国の周辺海域に影響与えないよう設定されている 固体ロケットブースタ 衛星フェアリング 	H-Ⅱ2号機とほぼ同じ

		第1段の燃え殻	—
	落下予測点軌跡	可能な限り人口稠密地域から離れて通過 するよう飛行経路が設定されている 図-2	H-112号機とほぼ同じ
	ミッション終了後宇宙空間に おける不要な人工物体となる ものの発生の抑制	宇宙空間に残るもの 第2段（安全弁、推進薬の排出） COMETS（ボルトキャッチャ）	H-112号機とほぼ同じ
	飛行中の状態監視、飛行中断等の 安全対策		
	飛行中の状態監視	安全確保上必要な範囲で行われる	H-112号機と同じ
	飛行中断	必要な場合には飛行が中断される	H-112号機と同じ
	電波リンクの確保	飛行安全管制終了まで確保されている	H-112号機とほぼ同じ
	警戒区域の設定	図-3	H-112号機と同じ
	航空機及び船舶に対する事前通報	水路通報、ノータム等により通報する	H-112号機と同じ
安全管理体制	安全組織及び業務	地上安全、飛行安全の組織が編成される	H-114号機と同じ
	安全教育・訓練の実施	実施される	H-114号機と同じ
	緊急事態への対応	予め定める手順に従って必要な措置が講 じられる	H-114号機と同じ
所見	地上安全対策及び安全管理体制はH-114号機と、また、飛行安全対策はH-112号機とほぼ同じ であり、所要の安全対策が講じられており、妥当であると考えられる。		

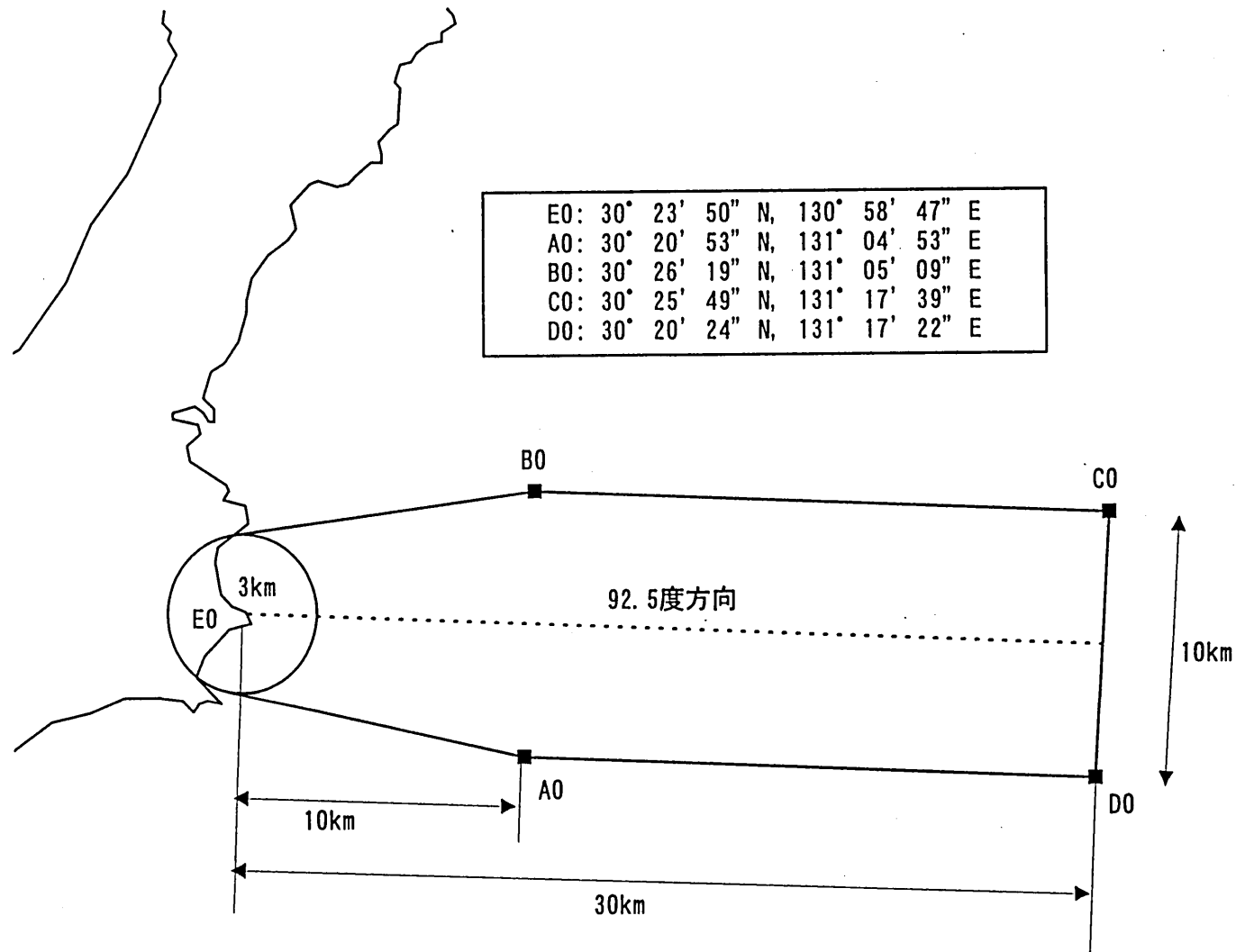


図ー１ ロケット燃え殻等の落下予想区域（２号機と５号機の比較）



注) 時間は発射後秒時を示す。(タイムマークは100秒ごと)
 上記の発射後秒時は、その時刻でロケットの推力が
 停止した場合の真空中落下予測点を示す。

図-2 落下予測点軌跡 (2号機と5号機の比較)



備考：H-II 5号機の海上警戒区域は
2号機と同一である。

図-3 警戒区域（2号機と5号機の比較）